



ビット89ニュース INTEREST

株式会社 ビット89
東京都品川区大井1-6-3 アゴラ大井町ビルF (〒140-0014)

2005年10月号
(隔月発行)

ハイライト: 今回のテーマは

進化するオフィス環境

Business Insight
オフィス環境の
昨日 今日 明日

The 特集
最新オフィス探訪記

Brain 89ers
米国オフィス事情

見識・洞察

インフォシェフ吉田健司のBusiness Insight

「オフィス環境の昨日 今日 明日」

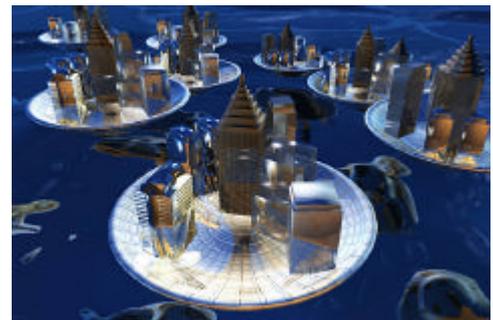
30年前、私が社会に出たとき、オフィスと言え、課長を中心とした「島」レイアウトで大部屋方式が一般的であった。当時、電話も課のメンバーで共有し、灰色のスチール製机が通り相場となっていた。係長、課長、部長、事業部長、役員と昇進していくにつれ、机が大きくなり、イスもひじ付き、背もたれの長大化、材質の高級化など変化し、その机とイスを見るだけでどんな職責の人の席か、一目で識別できた。

その後、コピー機やFAXなど所謂、OA機器がオフィスに導入されたが、オフィス全体にとってそれほど大きな変化はなかったように思われる。ちなみに、このOAすなわちオフィス・オートメーション(Office Automation)という言葉は、1977年リコーがオフィスの情報処理を効率化するためのコンセプトとして提唱したものである。

バブル経済の崩壊時期と相まって、パソコン、インターネット、ブロードバンド通信の高速・大容量化、携帯電話等が急速に普及し、「IT革命」の波が押し寄せてきたが、この高度情報化によってオフィス環境は大きく変貌したのではないだろうか。個人個人がパソコンを1台もしくは数台所有し、デスクもアイボリーなどオシャレな色で機能的なものになり、イスもエルゴノミックと言われる身体の負担を軽減するようなものが普及してきた。そして各個人は、首に携帯電話あるいはPHSをかけて仕事をしている光景もしばしば見かけるようになってきている。さらに、パーティションが導入され、かつての「大部屋方式」から「ブース方式」あるいは「コンパートメント方式」のようなレイアウトも登場するようになった。

かつて人事異動が発令されると、掲示板の前には社員の人だかりが凝り、お互いボソボソと会話する光景が一般的であったが、イントラネットが導入された今日、社員はパソコン画面で人事異動をひとりゆっくり眺めるだけである。メールでの情報交換は普及してきたが、ナマの人間同士の会話は少なくなったのではないだろうか。

携帯端末あるいはモバイル機器の普及によって、営業部員のワークスタイルは大きく変化し、オフィスに各自のデスクを持つ必要性も薄らい



参考写真: 未来のオフィスビル(CG)

できた。そこでホテルリングまたはフリー・アドレスというコンセプトに基づき、人数分のデスクを設置しないで、最低限必要なデスクを部員全員で共有し、必要な人が必要な時に使うシステムも増えてきている。

では、10年後、20年後のオフィスはどのように変化していくのだろうか?たとえばアロマテラピーによる臭覚刺激やBGMによる聴覚刺激など、既に一部のオフィスでは導入されている機能が普及するかも知れない。映画「マイリティ・リポート」では、網膜認識を利用した画面をユーザーがジェスチャー操作によって、情報の受発信を行ったりしていたが、あながち空想の世界とは言えない。

職場全体の環境に配慮せず、単に機械的にIT化を進めると、その主役であるヒトの「心」はついていかず、過大なストレスから健康を害することにもなる。真に快適なオフィスとは、会社サイトからみた「生産性」重視の思想と、働く個人サイドからみた「楽しさ」や「働きがい」重視の思想とが、バランスよく融合された職場環境である。デジタル化が進めば進むほど、人間のもつアナログな部分にも目を向けてもらいたいものである。

この文章の無断転載を禁じます。

目次:

	ページ
Business Insight	1
The 特集	2
気になるデータ 2005	2
Brain89ers	3
お知らせ & トピックス	4
発行書籍の ご案内	4
ビット89 インフォメーション	4

THE 特集 最新オフィス探訪記 ~日本テレコム(株)汐留コアオフィスを訪ねる~



日本テレコム(株)
取締役 代表執行役社長
倉重 英樹氏



日本テレコム(株)
インダストリーマーケティング部
アシスタントマネジャー
(青山学院大学 大学院
国際マネジメント研究科卒)
磯野 直樹氏

今年(2005年)1月、汐留の高層ビルに本社を移転した日本テレコム(株)。新本社は倉重社長が創造的ワークスタイルについてのビジョン、コンセプトを自らデザインしたという最新オフィスである。オフィス広報を担当されている磯野直樹さんにお話を伺い、ネットワーク知能社会の「知的生産工場」のあり方を探ってみた。

【Q1】 どのようなコンセプトに基づいて設計されたオフィスでしょうか？

「21世紀のネットワーク社会における、ライフスタイル、ワークスタイル、ビジネスモデルを提案し、最先端の技術を使い、その実現を推進します」というのが弊社の企業ビジョンです。このなかで掲げたワークスタイルを自ら追求し、具現化したのがこのオフィスです。そしてコア・オフィスのキーワードである「楽しさ」「創造性」「達成感」というのはどこから生まれるのかと考えたとき、「街」のパワーにヒントを見出しました。すなわち私たちは、雑然とした街を歩いているとき、人の五感が刺激され、それが創造性につながると考え、次の5つのゾーンを持ち込みました。

- Passage ..エレベータホールからオフィスへの通路
- Market ..人と情報があつまる円形広場
- Square ..各自の仕事と社内のコラボレーションゾーン
- Park ..リラックスした公園風コラボレーションゾーン
- Campus ..学びの研修スペース

ちなみに、日本テレコムのワークスタイルは、「Professional & Collaboration」ですが、この新オフィスによって、これを実践する「場」としての環境を整えることができました。(P.3 中段写真、参照)

【Q2】 一般的なオフィスと大きく異なるのは、どのようなことでしょうか？

「ペーパー・ストックレス」と「ユビキタス」と「フリーアドレス制」の3つではないでしょうか。まず、「ペーパー・ストックレス」では資料や書類は本社のサーバーに格納し、社員はネットワークを介してサーバーの中の資料や書類を参照します。書類関係はすべて電子データ化していますので、社員の「紙離れ」も否応なく進み、机の上はすっきりしています。次に「ユビキタス」ですが、社外や自宅にいても、また朝でも夜でも仕事ができるというネットワーク環境を実現しています。3つ目の「フリーアドレス」については、約2000人の社員が朝出勤すると、ロッカーから自分のノートパソコンと携帯電話を持ち出し、空いている好きなテーブルを探し、その社内LANに接続して仕事を始めます。完全自由席のオフィスなので、隣に誰が座るか、その日の場所によって変わります。気が付くと隣に役員が座っていたりしますね。以上のようなワークスタイルにしたお陰で、オフィス全体のスペースにも余裕が出てきました。



眼下には浜離宮と東京湾が一望できる



通称「金魚鉢」と言われる役員室

用語解説

フリーアドレス:

元来free addressとは「住所不定」を意味するが、社員専用の机や椅子を廃止し、どこでも好きな場所で仕事ができるオフィス形態のこと。無線LAN(構内無線通信網)を張り巡らせた社内、ノートパソコンとコードレスIP(インターネット・プロトコル)電話を持ち歩くという完全自由席のオフィス。

ユビキタス(ubiquitous):

ラテン語で「同時にいたるところで存在する」という意味。インターネットなどの情報ネットワークに、いつでも、どこからでもアクセスできる環境が実現すれば、場所にとらわれない働き方や娯楽が可能となる。

【Q3】 役員室もユニークだと伺っています。何が？

ガラス張りの円形エリアの中央にテーブルがあり、役員が執務します。役員同士が集まるのに、秘書を介して予定を調整しなくてはならない個室制に比べて、意思決定のスピードは速くなっています。

【Q4】 セキュリティ面での取り組みは？

弊社のワークスタイルは「Open」を志向していますが、情報セキュリティ面ではどうしても「Close」で「Strict」を志向せざるを得ず、二律背反となります。そこで、場所、人、ネットワークを分断して、両者を実現させました。

気になるデータ2005 オフィス関連データ

オフィス内における最も好まない場所・嫌いな場所 (調査時期:2004年11月~2005年2月 単位:%)

	男性		女性			男性		女性	
	非喫煙	喫煙	非喫煙	喫煙		非喫煙	喫煙	非喫煙	喫煙
喫煙室	37.0	7.2	39.5	20.0	エレベーター内、エレベータホール	2.1	1.2	1.3	0.0
会議室	10.3	21.7	6.6	20.0	別の部署、別フロア	1.4	2.4	0.0	10.0
自席	7.5	12	15.8	10.0	地下	1.4	2.4	1.3	0.0
上司の近く 役員室	4.1	8.4	5.3	10.0	給湯室	0.0	2.4	3.9	0.0
トイレ	3.4	4.8	2.6	0.0	リフレッシュコーナー	0.7	1.2	0.0	10.0
オフィス内	2.7	4.8	1.3	0.0	特になし	19.9	19.3	10.5	20.0
カフェテリア、食堂	1.4	2.4	2.6	0.0	その他	8.2	9.6	9.2	0.0
					全体	100.0	100.0	100.0	100.0

(出典:社団法人 ニューオフィス推進協議会)

Brain89ers の視点 米国オフィス事情

～ 米国在住ビジネスパーソンからのヒアリング情報 ～

本号のINTERESTでは、オフィス環境をテーマとして取り上げています。「日本ではOA投資があまり生産性向上に結びついていないのではないか」と指摘がしばしば聞かれますが、日本と比較してホワイトカラーの生産性が高いと言われる米国ではオフィス環境はどのようなものなのでしょうか？今回の「Brain89ersの視点」では米国在住の日本人ビジネスパーソンからみた米国オフィス事情をご紹介します。個人の机の上には家族写真などをおいている光景をよく目にする米国のオフィスですが、対面式キッチンなどが米国から時間差で普及したように、ワークスタイルの分野でも米国方式の良い面を受け入れて、改善・変革に向けて何か参考になるものがあるかも知れません。

ミシガン州在住のAさん
米国では、管理職以上は自分の個室に、会議用机を持っており 3～4人の打ち合わせであれば、その個室で行うというケースが多いですね。これは、物理的に日本よりスペースが作りやすいということもありますが、各自の業務責任分担が明確化されているからではないでしょうか。この米国方式の場合、少人数の会議を開くには極めて有効で、日本で会議室確保に苦労したりすることはありません。一方、個室の場合、隔離されているため、部門間のコミュニケーションの壁となるデメリットも生じます。このデメリットを解消するためか、談話室を設ける会社も多く見かけます。

まだ少数派ですが、部門間の風通しをよくするため、個室を極力取り除いた日本式オフィスも最近見るようになりました。

ニューヨーク在住のSさん

米国の会社や日本の外資系企業では、各個人のデスクがパーティションで区切られているのが普通かと思います。都会と地方では、スペース等の関係で事情も異なりますが、ニューヨークのような都会では、一般の事務系サポート社員はパーティションで区切られているだけですが、出世と共に個人部屋がもらえるような仕組みになっているようです。映画の「摩天楼はバラ色に」、「ワーキング・ガール」、「ウォール・ストリート」などを見ても、その状況がわかるのではないのでしょうか。

最後に、一言で言えば、米国は個が優先、「日本は組織が優先」というイメージがします。

「Brain89ers」とは...

ビット89には、さまざまな分野で活躍する豊かな才能・個性を持った方々のネットワークがあります。このネットワーク、「Brain89ers」(ブレイン・エイティナイナーズ)の知性を共有することにより、皆さまのビジネスはより深く広く、味わい深いものとなります。そこで、毎号これらの方々に登場していただき、独自の視点からビジネスや社会・世界情勢について語っていただきます。

(2ページより続く)

日本テレコム汐留コアオフィス「街」をコンセプトとした5つのゾーン



Passage : 通路ゾーン



Park : 公園風コラボゾーン



Market : 円形広場



Square : 社内コラボゾーン



Campus : 研修スペース

BIT89 Book Guide

1. オフィス進化論

～ オフィスはどこへ向かうのか～

岡村製作所の研究スタッフがオフィスに「知識の創出」「知識の浸透」「知識創出・浸透の継続的発展」の場ととらえ、そのあるべき姿を描く。

鯨井康志 編
日経BP企画刊
2940円 税込
ISBN4861300266



2. 椅子とパソコンをなくせば会社は伸びる!

キヤノンで身につけた「垢すり」のノウハウをベースにキヤノン電子を高収益企業に育てた酒巻社長の著書。売上は横ばいでも、利益を5年で1.0倍にする」方法を明らかにする。

酒巻久 著
祥伝社刊
1470円 税込
ISBN4396612486



3. 創造的オフィス環境

～ 新時代のオフィスとホワイトカラー～

オフィスの生成・発展過程を概観した後、オフィス形態とホワイトカラーの生産性、オフィス形態とそこで働くホワイトカラーの動機づけについて考察。関西学院大学研究叢書(第101編)。

古川靖洋 著
千倉書房刊
2730円 税込
ISBN4805108037



中国・東北大学(遼寧省瀋陽市)での講演報告

9月1日(木)中国、遼寧省瀋陽市にある東北大学の科学技術哲学研究センターにて、大学院生と教授の方々を対象に、「モノづくりの本質 ~日本におけるモノづくりへの取り組み」と題する講演を行いました。次のような講演項目について、約2時間、講演したあと、30分ほど活発な質疑応答をさせていただきました。



講演風景

1. 技術革新と新社会の出現
2. モノづくりと科学・技術・技能の関係
3. モノづくりの競争優位戦略と顧客満足向上
4. ホンモノへの探求心(職人氣質志向)

最後の項目で、「日本では、価格に見合った品質や機能は当然のものと考え、このほかにプラスアルファのこだわりがあり、単なる『機能品』ではなく、さらに磨き上げた『芸術品』を創ろうという傾向があり、これが職人のホンモノ志向と言われるものです」と締めくくったところ、受講者の方々から共感の拍手をいただきました。

恒例 第22回 秋の「プラネットセミナー」開催の案内

恒例の弊社プラネット・セミナー(2005年秋季)を、下記の通り開催いたします。今回の全体テーマは「2007年問題のリスクとビジネス・チャンス」とし、団塊世代の定年による労働力不足などへの対応と新事業への取り組み可能性などについて、探ってみたいと思います。また本セミナーでは、大和総研チーフエコノミストの原田泰氏をお招きし、基調講演をお願いします。



セミナー会場: 東京国際フォーラム

日時: 10月26日(水) 13:30~16:50

場所: 東京国際フォーラム(JR有楽町駅前)

G-510会議室

参加費: 10000円(一般の方)

5000円(経営プラネット正会員) 8000円(経営プラネットピギナー会員)



写真左

**実践! MBAトレーニング
中国ビジネスのケーススタディ**

写真右

**即戦力が身につく!
最強のMBAバイブル**

株式会社 ビット89
東京都品川区大井1-6-3
アゴラ大井町ビルF (〒140-0014)
03(3774) 8950
Fax 03(3774) 8951
メール info@bit89.co.jp
HP <http://www.bit89.co.jp>

発行責任者 吉田 健司
編集責任者 鮎 広史

吉田健司 著書のご案内

好評発売中!! 「戦略」「ヒト」「モノ」「カネ」「文化」の本質と応用がつかめる本です。
実践! MBAトレーニング 中国ビジネスのケーススタディ PHP研究所刊 2,000円

好評発売中!! MBAコースのエッセンスをいっとこどりした本です。
即戦力が身につく! 最強のMBAバイブル PHP研究所刊 1,400円

出版社にお申し込み頂ければ、著者紹介価格(10%引き)にて、宅配も可能です。
(合計5000円以上は送料無料)

お申し込み先 PHP研究所 ビジネス出版部 兵庫(ひょうごさん)
FAX:03-3239-7497 e-mail:r-hyogo@php.co.jp

ビット89インフォメーション

発売中の書籍内容に沿ったテーマだけでなく、最新のビジネスメソッドに関する講演、セミナーのご依頼に積極的にお応えいたします。また、併せてマーケティングリサーチ、各種ビジネストレーニングおよび経営コンサルティングなどに関するお問い合わせなどは、左記までお気軽にご連絡くださいませ。

皆様の会社が、現在抱えておられるビジネス上の課題を解決してみませんか? 弊社代表 吉田健司が「経営プラネット」および「ピギナー会員(体験会員)」の皆様を対象に、毎月先着5名様まで頂いた質問にEメールまたはFAXにてご返答いたします。ご希望の方は左記のEメールアドレスまたはFAX番号宛にご質問内容をお送りください。

INTEREST編集部では、INTERESTで特集を組んでほしいテーマを募集しております。左記のメールアドレスより編集担当宛に御社名とお名前を明記の上、お寄せください。